

「ルーブリック評価」について

2016 年度より、4 年次への進級条件科目および卒業研究（卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究）についてシラバスの成績評価基準を補完するものとしてルーブリックを作成しました。

このルーブリックは、進級条件科目および卒業研究に求められる達成目標をどの程度達成できているかを確認するためのものです。

ルーブリックを利用して、自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りない点を確認し、各自の学修を深めてください。

ルーブリックは WebClass で閲覧することができます。WebClass にログインし、参加可能なコースから「学務課」の「〇〇専攻ルーブリック」を選択して、メンバーになり閲覧してください。

■よくある質問と回答

Q. 「ルーブリック」とは何ですか？

A. ルーブリックは、成績評価基準を観点と尺度別に、詳しく説明したものです。

先生が成績評価を行う際に、どのような観点を設定し、それがどの程度までできればよいと考えているかを示しています。

学生の皆さんは、自分がその授業科目の到達目標をどの程度達成できているかを確認することができます。

Q. 成績評価基準が今までと変わるのですか？

「ルーブリック」がある科目は、成績評価が今までより厳しくなるのでしょうか？

A. いいえ。成績評価基準は変わりません。また、厳しくなるわけでもありません。ルーブリックによって自分の学修の現状を確認し、自身に足りないものがあれば意識的に取り組み、自らの学修を深めるために活用してください。

参考：中央教育審議会答申*「用語集」より【ルーブリック】

米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。

コースや授業科目、課題（レポート）などの単位で設定することができる。以下略

*「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成 24 年 8 月 28 日）

2017 年 4 月
教務委員会

授業科目名：CK951 卒業論文（コミュニケーション専攻）

到達目標（『授業科目の概要』より）：

- ・ 学科・専攻での学びをもとに、研究テーマおよび問題提起を設定することができる。
- ・ 設定した問題について資料・文献等をもとにして仮説をたてることことができる。
- ・ 仮説を検証するための適切な研究方法（調査や実験等）を計画・実施することができる。
- ・ データを分析・考察し、得られた知見を研究論文として論述することができる。

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優れた成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績) シラバスの到達目標 を達成している	尺度2 (C) (合格と認められる 最低の成績)	尺度1 (F) (不合格)
観点1：人間科学に関する高度な知識と社会貢献の意欲	卒業論文が、人間科学に関する高度な知識を活かして、社会に貢献する内容になっている。	卒業論文の内容から人間科学に関する高度な知識を習得していることと社会に貢献する意欲が読み取れる。	卒業論文の内容から人間科学に関する高度な知識を習得したことが分かる。	卒業論文の内容から人間科学に関する知識を習得したことが分かる。	卒業論文の内容から人間科学に関する知識を習得したことを読み取れない。
観点2：研究テーマの設定・問題提起をする力	自らの研究プロジェクトのために適切かつ新規性や有用性のある研究テーマの設定・問題提起をすることができる	自らの研究プロジェクトのために適切かつ優れた研究テーマの設定・問題提起をすることができる	自らの研究プロジェクトのために妥当な範囲の研究テーマの設定・問題提起をすることができる	自らの研究プロジェクトのために、適切とはいえないが研究テーマの設定・問題提起をすることができる	自らの研究プロジェクトのために研究テーマの設定・問題提起をすることができない
観点3：文献研究をベースに有用かつ検証可能な仮説を立てる力	文献研究をベースに研究目的に適し、有用かつ検証可能な仮説を立てることができる	文献研究をベースに研究目的に適し、かつ検証可能な仮説を立てることができる	文献研究をベースに検証可能な仮説を立てることができる	実証可能な仮説を立てることができる	実証可能な仮説を立てることができない
観点4：先行研究などの他者の著作を正しく引用できるスキル	引用も文献リストも専攻で指定している細かい基準に照らして適切と評価できる。	引用も文献リストも世間一般的な基準に照らして適切と評価できる。基準的なレベル。	引用も文献リストも世間一般的に言って不適切な範囲には入らない。ボトムラインを通過できている。	論文に引用があり、かつ引用文献リストがあるが、引用として適切とまでは言えない。	論文に引用がない、or引用文献リストがないか、いずれか一方がない
観点5：(a)か(b)のいずれか (a) 仮説を検証するための適切な実証研究を計画・実施する力 (b) 課題を明らかにするための適切な実証研究を計画・実施する力	(a) 仮説を検証するために十分適切な実証研究を計画・実施できる。 (b) 課題を明らかにするために十分適切な実証研究を計画・実施できる。	(a) 仮説を検証するためにほぼ適切な実証研究を計画・実施できる。 (b) 課題を明らかにするためにほぼ適切な実証研究を計画・実施できる。	(a) 適切かどうかはともかく、仮説を検証するための実証研究を計画・実施できる。 (b) 適切かどうかはともかく、課題を明らかにするための実証研究を計画・実施できる。	実証研究を計画・実施できる。(a、b 共通)	実証研究を計画・実施できない。(a、b 共通)
観点6：実証研究結果をデータ分析・解釈する力	研究結果のデータを十分に適切に分析・解釈できる。	研究結果のデータをほぼ適切に分析・解釈できる。	研究結果のデータを分析・解釈でき、ある程度適切と評価できる。	研究結果のデータを分析・解釈できるが、適切とは言えない。	研究結果のデータを分析できない。
観点7：得られた知見を研究論文として報告できる力	学術誌に投稿して採択されるレベルの研究論文と評価することができる。	研究テーマについて実証研究を実施した結果、仮説の検証が科学的になされ、それを解釈した考察と結論が記載されている。	研究テーマについて実証研究を実施したことが報告されている。	提出された体裁が指定された形であると認めることができるレベル。	提出されているが、体裁の不備が多く完成していると言いがたい。
観点8：批判的な環境で説得的に主張する力（口述試験）	卒業論文の発表が分かりやすく、かつ質疑応答で自己の論点を十分説得的に守ることができる。	卒業論文の内容を適切に発表をすることができ、質疑応答では個々の応答が適切である。	卒業論文の内容を適切に発表をすることができ、議論のかみあった質疑応答に答えることができる。	卒業論文の内容をある程度理解できる発表をすることができるが、一部の質疑応答に答えることができない。	卒業論文の内容を聴衆に理解できるように発表することができない。